

令和6年度卒業式・修了式 式辞

本日、晴れて学位を授与された、学士 816 名、専攻科 6 名、修士 255 名、教職修士 35 名、そして博士 32 名の皆さん、誠におめでとうございます。これまで皆さんが重ねて来られたご努力に敬意を表するとともに、皆さんを励まし支えてこられたご家族、並びに関係の方々にも、祝意と感謝の気持ちをお伝えいたします。

多くの皆さんが入学されたのは、2021 年の 4 月、未曾有のコロナ禍の只中でした。その年の入学式は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を鑑み、規模を縮小した各学部・学科等での開催となり、当時、教学担当理事を務めておりました私としましては、執行部の一人として、そのような苦渋の決断をせざるを得なかったことに対し、心を痛め、大変残念に思っておりました。同時に、本日、卒業生・修了生のみなさんをはじめ、保護者及びご来賓の皆様と一堂に会して、卒業、修了の式典を挙行することができましたことを、大変嬉しく思っております。改めまして、山梨大学の教職員、在校生を代表いたしまして、心よりお祝いを申し上げます。

皆さんは、大学生活の半分近くをコロナ禍という困難な状況の中で過ごされ、感染対策により対面授業や課外活動が制限され、思い描いていたような学生生活とは異なる環境で学ばざるを得なかったことと推察いたします。そのような中で、皆さんは創意工夫を凝らし、オンラインでの学びを充実させ、仲間と支え合いながら前進して来られました。

私は、皆さんのその思考力と実行力は、これからのお一人おひとりの人生において、きっと大きな財産となることと信じております。この経験をネガティブに捉えず、コロナ禍での苦しい学生生活をやりきったことを、自らの誇りとして、自信をもって、人生を切り開いていただきたいと心から願っております。

さて、皆さんが山梨大学で様々な経験を積み重ねてこられた、この数年間で、社会が抱える課題は一層複雑化してまいりました。地球温暖化や生物多様性の喪失をはじめ、資源の枯渇、少子高齢化と人口減少、さらには紛争を交えた国際情勢の変動など、私たちは今、実に多くの地球規模の課題に直面しています。

私は、こうした時代において、本学山梨大学に求められていることは、高等教育機関としての使命を果たし、人材育成と研究成果を社会へ還元するとともに、産業界や自治体、地域社会と連携をしながら、新たな価値を創出していくことであると考えます。地域のニーズを的確に捉え、それに応じて教育・研究を発展させていくことが重要であり、不足している要素を補い、新たな知の創造に挑戦することこそが、私たちの未来を切り拓く力となると確信しております。

皆さんが学び、成長されてこられたこの山梨大学は、地域の課題解決に主体的に関わり、地域社会とともに発展し続け、さらには社会の発展を牽引する存在でなければなりません。これは、国立大学としての本来の使命であり、責任でもあります。

私は、本日、学位記を授与された皆さんに、社会の要請をしっかりと受け止め、真正面から挑戦し、社会に必要とされる人になっていただきたいと考えております。また同時に、自らがどのような目標に向かって進むべきかを考え、その目標に向かって主体的に行動できる人間力を、是非とも身に付けてほしいと願っております。

学位記の授与は、到達点ではなく、新たな出発点であります。皆さんがここ山梨大学で培った知識と経験を、これから皆さんが進まれるフィールドで遺憾なく発揮し、活躍されることを心より期待し、そして心より応援いたします。皆さんの未来に、限りなき無限の可能性が広がっていることと、信じております。

ここで、ご卒業・修了され皆さんに、皆さんと同様に山梨大学を卒業し、2015年にノーベル生理学・医学賞を受賞された大村智先生から教えていただいた、『至誠惻怛』という言葉をご紹介します。

『至誠惻怛』の「至誠」とは、極めて誠実なこと、まごころを尽くすことを意味し、「惻怛」とは、他者の痛みや悲しみに寄り添う心を指します。「まごころとともに、周りの人の痛みや悲しみを理解する気持ちがあれば、人はやさしくなれる。誠を尽くし、いつくしみをもって接することができれば、物事はうまく運ぶ」という教えが込められています。

私自身は、この『至誠惻怛』という言葉で「誠意をもって人に尽くし、人の心を慮り、人の痛みを知ることによって、世の中を良くすることができる。そしてその姿勢が自らの生きざまとなる。」と解釈しており、生きていくうえでとても大切にしている言葉であります。

先ほど、山梨大学の使命として、人材を育成し、研究成果を社会へと還元するとともに、産業界や自治体、地域社会と連携し、新たな価値を創出していくことの重要性をお話しました。ここでいう地域社会への貢献は、技術や知識を提供にとどまるものではありません。私たちが、ともに一つの社会で生きていくためには、互いのことを思いやり、支え合う「こころ」を育むことが、最も重要であると、私は考えております。

技術や知識だけでは解決できない深刻な対立や矛盾が、私たちの社会には存在しています。力による一方的な解決策は、不条理な犠牲を生み出しかねません。私は、多様な意見が交錯し、時に衝突する現代において、最も求められることは「誠意をもって人に尽くし、人の心を慮り、人の痛みを知ること」だと信じております。AIには到底持つことのできない、人間ならではの心の温もりや、魂の伝播こそが、こうした困難を乗り越え、新たな可能性を切り開く鍵となるはずであります。

私は、皆さんがこれから歩む人生において、この『至誠惻怛』の精神を大切にし、誠意と慈しみの心をもって人と関わり、社会に貢献していかれることを心より願っています。

今年も卒業生の中に世界12カ国から来られた60名の留学生がいらっしゃいます。言語はもちろんのこと、文化や習慣など、様々な面で大きく異なる環境下で修学することは大変困難であったと思います。それを乗り越えて本日を迎えられた皆さんを称え、英語でメッセージを送ります。

I would like to make a short address in English for the 60 international students attending today.

Congratulations to all of you on your graduation and the conferral of degrees. On behalf of the faculty and staff of the University of Yamanashi, I extend my heartfelt respect for your hard work and strong will.

You have begun your challenging journey, leaving your home countries and overcoming differences in language, culture, and customs. The past few years have not been easy, yet you have faced these challenges with strength and effort. Today, your achievements are proof of your hard work and growth.

As you move forward to new paths, remember that graduation is not an end but a new beginning. We sincerely hope that the knowledge and experiences you have gained here will support you in all your future endeavors. You will always be a part

of the University of Yamanashi, and we look forward to seeing your continued success.

Once again, congratulations to all of you on this special occasion.

結びに、本日、ご卒業・修了される皆さんが、大きな変革の時を迎えた時代において、自分の人生を自分で切り開くという志を持ち、周りの人の気持ちを慮りながら、ここ山梨大学から世界に羽ばたき、大いにご活躍されることを心底より祈念し、私の式辞といたします。

本日は、誠におめでとうございます。

令和7年3月19日
国立大学法人山梨大学
学長 中村 和彦